

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 九州市立上津中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

##### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

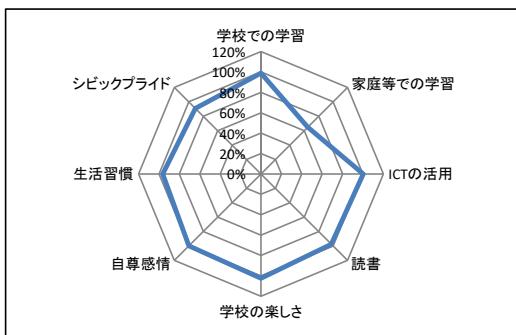
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率を下回った。問題に対して無回答の生徒の率は全国平均に対して少なく学習の意欲をもっているが、表現の能力が不足していることがわかる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	読むこと	
	努力が必要な問題	話すこと・聞くこと、書くこと	

数学	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率を下回ったものの、ほぼすべての問題で無回答率は全国平均を下回り意欲をもって問題に取り組んでいるが、証明問題を不得手にしていることがわかる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数と式	
	努力が必要な問題	図形・関数	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国のIRTを下回ったものの、無回答は全国より少なく意欲を持って臨んでいることがわかる。記述問題の正答率が特に低いことから表現することを不得手にしていることがわかる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	エネルギー	
	努力が必要な問題	生命・粒子	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



**質問調査の結果分析**

- ・自尊感情に関する项目的ポイントが高く、また、学校の楽しさに関する项目的ポイントも高い。このことは、多くの生徒が前向きな態度で学校生活を送っており、学校全体の落ち着いた雰囲気にも表れている。
- ・家庭・学校での生活習慣の啓発の結果がでて生活習慣のポイントが昨年度からあがった。
- ・課題であったICT活用のポイントも前年度よりさらによくなっている。
- ・家庭学習のポイントが低いことから、宿題や家庭学習の啓発を引き続き行う必要がある。
- ・ICTの授業で活用があがってきたので、ICTによる朝自習やICTを活用した授業の工夫に引き続き取り組んでいく。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組

・生徒の学習意欲には高いものが見られるので、基礎学力の充実を図る必要がある。すべての教科で表現にかかる問題を不得手としているので、振り返りの時間を確保し生徒自身の言葉でまとめさせていくことで表現の能力を高めていきたい。また、ICTを利用した個に応じた学習に取り組んでいきたい。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習は、生徒の主体的な学習への取組として欠かせない。そのため、生活記録ノートや教育相談の機会を通して生活習慣の改善とともに継続的に啓発していく。また、3学期にも教育相談を行ったり、学校・学年だより等で保護者に生徒の実態を知らせているのでこれを継続していく。